



心が動く体験が、 子どもたちの未来の選択肢を広げる。

病気や障がいのある子どもたちとご家族へ、
舞台表現を通じて「心が動く体験」を届けています。

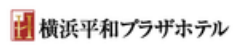
2025年度も、企業・団体・個人の皆さまから多くのご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。



Supported by 日本 THE NIPPON
映画 FOUNDATION



THE TOZAWAMASAMI FOUNDATION
一般財団法人 戸沢暢美財団



※ロゴは、掲載許可をいただいた企業・団体のみ掲載しています。

Annual Report 2025

2025.4 - 2026.3



特定非営利活動法人 心魂プロジェクト

特定非営利活動法人 心魂プロジェクト

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1丁目11-1 水信ビル7階

E-mail : info@cocorodama.com

ホームページ : <https://www.cocorodama.com>

Facebook : <https://www.facebook.com/cocorodama/>



2026年8月発行

CONTENTS | 目次

2025年度、心魂プロジェクトが届けた活動と、
そこから生まれた変化、未来への歩みを一冊にまとめました。

巻頭

団体概要	2
代表あいさつ	3
心が動く体験が、子どもたちの未来の選択肢を広げる	4

第1章 2025年度の主な活動とその成果

2025年度活動ダイジェスト	5-6
活動トピックス	7-10
活動特集	11-17
数字で見る心魂2025	18
子どもたちに生まれた変化	19-20

第3章 心魂プロジェクトの活動紹介

届ける 公演事業	27
つながる コミュニケーション事業	28
育てる 育成事業	29
伝える 普及啓発事業	30

第5章 支えてくださった皆さまと、これから

2025年度会計報告	35
2026年度事業計画	36
心が動く体験を届け続けるためのご支援	37-38

第2章 心魂の活動がもたらす変化

心が動いた先に生まれる変化	21-26
・ CACE 01 参加する側から、生み出す側へ	
・ CACE 02 視線で選び、視線で届ける	
・ CACE 03 見てきた経験を、届ける力へ	

第4章 2025年度の実績とこれまでの歩み

教育・企業・社会へ広がる心魂	31-32
12年間の歩み、そしてこれから	33-34

2025年度 活動ハイライト

病院・施設・学校への訪問公演、全国をつなぐオンライン配信、子どもたちが自分らしく表現するワークショップを実施しました。

活動回数：774回 | 参加・視聴者数：15,614人 / 346,262再生 | 活動都道府県：23 / 台湾
主な活動：訪問公演・オンライン配信・表現ワークショップ

団体概要



「心魂プロジェクト」について

劇場に来るのが難しいなら、
私たちが行けばいい。

私たち心魂プロジェクトは、病気や障がいのある子どもたちとそのきょうだい、ご家族に向けて、歌や踊りを中心とした“劇場空間”そのものを感じられる「特別な体験」を届けているパフォーマンス団体です。

公演やワークショップ、オンライン・オフラインでの交流、育成活動を通して、子どもたちが「できた」「やってみたい」「また挑戦したい」と思える時間を生み出しています。

こうした“心が動く特別な体験”が、自分で未来を描くための「選択肢」につながると信じて、全国、そして海外で活動を続けています。

法人名

特定非営利活動法人 心魂プロジェクト

設立

2014年1月

主な事業

1. 公演事業
2. オンライン（コミュニティ）事業
3. 育成事業
4. 普及啓発事業

共同代表

寺田 真実（元・CITIZENグループ海外営業、劇団四季）
有永 美奈子（元・宝塚歌劇団、劇団四季）

役員体制

理事 6名、監事 1名

所属パフォーマー

プロメンバー 12名
心魂キッズ団・Youth心魂・社会人パフォーマー・シブリングパフォーマー 計46名

主な受賞

博報賞、社会貢献者表彰、保健文化賞 ほか

※ 病院・施設・学校等と連携し、子どもたちの体調や環境に配慮しながら活動しています。

代表あいさつ



医療の進化が目覚ましく、かつては救うことが難しかった多くの子ども達の命が助かるようになっていきます。これは本当に素晴らしく、希望に満ちたことだと感じています。

しかしその一方で、病気や障がいを抱えながら生きる子ども達の「生きる環境」は、まだ十分に整備されているとは言えません。外出の難しさ、感染リスク、周囲の理解不足、体験機会の少なさなど、さまざまな壁によって、多くの子ども達が「当たり前」と言われる経験から取り残されています。

私たちは、子どもにとって「体験をすること」そのものが大切な仕事だと考えています。

体験して初めて、「好き」「嫌い」「やってみたい」「悔しい」「もっと頑張りたい」という気持ちが生れます。そして、その積み重ねが、自分を信じる力、自分を肯定する力へとつながっていきます。

しかし現代の日本には、その“当たり前の体験”を得ることが難しい、「体験貧困」と呼ばれる状況の子ども達が数多く存在しています。

だからこそ私たち心魂プロジェクトは、病気や障がいの有無に関わらず、「ワクワク・ドキドキ・感動」を届けたいと願い活動を続けています。

劇団四季・宝塚歌劇団出身のプロパフォーマーによる本格的な舞台芸術を通して、“心が動く体験”を届けること。そして、その感動が子ども達の挑戦や表現、未来への一歩につながることを願い活動しています。

2025年度からは、日本生命協賛「こころだま公演」がスタートしました。日本全国15カ所の特別支援学校、4カ所の病院・施設、そして希望する難病児・障がい児・きょうだい児が参加可能なオンライン公演を2回実施させていただくこととなり、今年度は北海道から沖縄まで、本当に多くの子ども達へ公演を届けることができました。

2025年度は「こころだま公演」に加え、全国各地での訪問公演やオンライン公演など、多くの活動を実施し、年間を通じて数多くの子ども達やご家族へ感動体験を届けることができました。これだけ大規模な活動を実施できたのは、決して私たちだけの力ではありません。日本生命さま、日本財団さま、日本歯科医師会TOOTH FAIRY助成事業をはじめ、多くの企業・団体・個人の皆さまに活動を支えていただきました。また、有料公演をご依頼くださる病院・学校・施設・団体の皆さま、日頃より応援してくださる心魂ファミリーの皆さま、そして共に活動を創り上げてくれた社会人パフォーマー、心魂キッズ団、Youth心魂、シブリングパフォーマー、プロパフォーマーの仲間たちに、心より感謝申し上げます。

また2025年度は、私たちの活動が「教育」という分野においても高い評価をいただく大きな一年となりました。心魂プロジェクトとして初めて全国規模の教育賞である「第56回博報賞」を受賞することができました。子ども達が、視線入力やスイッチ、歌、ダンス、身体表現など、それぞれの方法で「自分の想い」を社会へ届けていく実践が評価されたものと受け止めています。

2026年度からは、心魂の理念や活動を次世代へ継承していくため、将来的に活動の中核を担うことが期待される活動家としての育成メンバーが本格的に活動へ加わります。子ども達や家族と共に築いてきた想い、技術、そして「共に生き合う」という理念を次の世代へつないでいくための大きな挑戦です。

これからも心魂プロジェクトは、「支援する・される」という関係を超え、一人ひとりが互いの心を動かし合いながら、“共に生き合う社会”を目指して歩み続けます。

一人でも多くの子ども達へ“心が動く体験”を届けるため、これからも挑戦を続けてまいります。

今後とも、温かいご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 心魂プロジェクト
代表理事 寺田 美奈子（有永 美奈子）

3分でわかる心魂プロジェクト

心が動く体験が、子どもたちの未来の選択肢を広げる

病気や障がいのある子どもたちは、体験・表現・家族・社会とのつながりの面で、複数の壁に直面しています。心魂プロジェクトは、舞台表現やワークショップを通じて、子どもたちと家族に「できた」「やってみたい」「また挑戦したい」と思える時間を届けています。

心魂が向き合う社会課題

体験の機会

1. 体験機会の不足
2. 当たり前の経験からの孤立
3. できたという自信の不足
4. 自己肯定感を育む機会の不足

見えにくい想いと、家族の孤立

5. 意思や表現の見えにくさ
6. 家族の孤立
7. きょうだい児への支援不足

社会の思い込みと支援の分断

8. 社会の思い込み
9. 支援される存在への固定化
10. 分断された支援環境

心魂が届けるのは、鑑賞だけではありません。

子どもたちの「できた」が生まれ、家族や社会との関係が動き、未来の選択肢が広がる体験です。



第1章 2025年度の主な活動とその成果

2025年度活動ダイジェスト

2025年度、心魂プロジェクトは、病院・施設・学校・地域・企業・オンラインなど、さまざまな場所へ活動を届けながら、新たな挑戦にも取り組んだ一年となりました。

全国各地での公演活動に加え、海外公演や新規プロジェクト、研究所拠点の始動など、新たな展開も生まれました。

また、受賞やメディア掲載などを通して、活動への関心や評価も広がりました。

■ 全国へ広がった一年

47都道府県制覇・台湾公演など、全国・海外へ活動が広がりました。

■ 新しい挑戦が始まった一年

研究所始動や新規プロジェクトなど、次の未来へ向けた挑戦が始まりました。

■ 社会に評価された一年

博報賞受賞や企業連携など、活動の価値が社会へ広がりました。



千葉県特別プロジェクト 地元へ根差した団体を目指し、心魂研究所のある千葉県を拠点とした活動が始動。



心魂研究所 次世代育成・創作・研究活動の新たな拠点として始動。

- ・公演事業回数 **774回**
- ・実施地域数(台湾含む) **24地域**
- ・総参加人数 **15,614人**
- ・オンライン再生回数 **346,262回**
- ・寄付・協賛の総額 **37,236,254円**



日本生命協賛こころだま公演 全国の特別支援学校・病院（施設）へ届ける新たな公演プロジェクトがスタート。



台湾公演ツアー
台湾の小児病棟へ心魂パフォーマンスを届けました。



石川県・能登半島公演ツアー
震災後の地域へ、2025年度も歌とパフォーマンスを届けました。



大型オンライン公演
全国の病室・自宅とつながる公演を開催。



博報賞受賞
教育分野で心魂の取り組みが評価されました。



ワクワクつながる祭典【地方版 in 秋田】
地方版として初開催。地域とつながる新たな祭典へ。



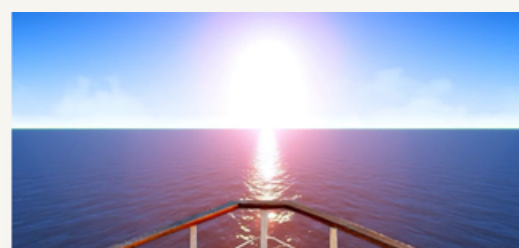
育成プロジェクト
次世代育成に向けた新たな取り組みが進行。



ワクワクつながる祭典 in 横浜



小児病棟公演



新作映像を制作



新作衣装登場



心魂SPECIAL SUPPORTER2026
クラウドファンディング
目標金額達成！！

7,047,560円のご支援が集まりました。

活動トピックス

4月 - 9月

4月

公演・WS	参加・共創型活動 1回 オンライン活動 6回
オンライン配信	39回
教育・講座	2回
その他	交流・合宿 2回



心魂TV遠足



社会人パフォーマー合宿

活動に比較的ゆとりのある4月。交流や合宿を通して、仲間とのつながりを深めました。



春の大型ライブ
大型オンラインライブを全国へ配信。



第4回チャリティコンサート（神奈川）

5月

公演・WS	支援学校活動 4回 病院・福祉連携活動 10回 オンライン活動 7回 ワークショップ 1回
オンライン配信	44回
講演会	3回
教育・講座	2回



東京都立町田の丘学園公演
「日本生命協賛こころだま公演」 初回 公演を実施。



小児病棟わくわく応援団、
都立小児総合医療センターに集合！



「こども未来支援拠点
あいのカタチ」
開所式（北海道）

6月

公演・WS	支援学校活動 8回 病院・福祉連携活動 9回 ワークショップ 2回
オンライン配信	47回
講演会	1回
教育・講座	3回



密着取材の様子



独立行政法人国立病院機構
全国保育士協議会
講演会（石川）



茨城キリスト教学園公演
中高生約1,200名へ。キッズ団・
社会人パフォーマーのソロパフォー
マンスも届けました。



能登半島・石川県 x 心魂
いっしょに進もうプロジェクト
6月2日～16日、珠洲市・輪島市・七尾市
を含む9施設へ公演を届けました。

●心魂研究所の設立が決定

●「日本生命協賛こころだま公演」始動

●台湾小児病棟活動への協賛が決定

●TBS「news23」にて全国放送

●クラウドファンディングを開始

2025年4月

5

6

7

8

9

7月

公演・WS	支援学校活動 2回 病院・福祉連携活動 9回
オンライン配信	53回
講演会	1回
教育・講座	2回



千葉大学医学部附属病院 小児病棟公演
1クリーンルーム・一般病棟それぞれのプレ
イルームにて公演を届けました。



東三河ブロック父母の会連絡協議会公演



青山学院大学講義
約100名の大学生へ
パフォーマンスを届けました。

8月

公演・WS	支援学校活動 1回 病院・福祉連携活動 9回 オンライン活動 1回 ワークショップ 1回
オンライン配信	49回
講演会	1回
教育・講座	2回



にじいろ「みんなの音楽会」（埼玉）
コロナ禍前は毎年のように伺っていた
「にじいろ」さんへ、6年ぶりに公演
をお届けすることができました。



シアター引っ越したよ大型ライブ



横浜こどもホスピスプロジェクト公演
地域のご家族やボランティアの皆様も
ご参加くださいました。

9月

公演・WS	支援学校活動 2回 病院・福祉連携活動 8回 地域・会場型活動 4回 オンライン活動 1回 ワークショップ 1回
オンライン配信	48回
講演会	1回
教育・講座	2回



NFB公演（兵庫）
（旧：西宮市肢体不自由児者父母の会）



長寿園公演（石川）



珠洲ビーチホテル公演（石川）

活動トピックス 10月 - 3月

10月

公演・WS

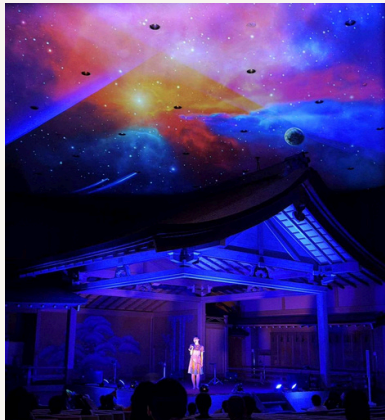
支援学校活動 | 6回
病院・福祉連携活動 | 6回
地域・会場型活動 | 4回
ワークショップ | 5回

オンライン配信

43回

教育・講座

2回



大分大型公演
能楽堂という特別な空間で
大型公演を実施しました。



名古屋大学医学部附属病院公演



愛媛県立しげのぶ特別支援学校公演
育成メンバー穂乃果の妹・ゆいかが在籍
する学校へ公演を届けました。

11月

公演・WS

支援学校活動 | 3回
病院・福祉連携活動 | 5回
地域・会場型活動 | 2回
学校・企業向け活動 | 1回
コラボレーション企画 | 4回
ワークショップ | 4回

オンライン配信

52回

教育・講座

2回



ワクワクつながる祭典in秋田
「ワクワクつながる祭典」地方版、
秋田で初開催。



ワクワクつながる子ども
フェスタ出演（北海道）



シャイン・オン! キッズ
ガラパーティー出演
（東京）

12月

公演・WS

支援学校活動 | 3回
病院・福祉連携活動 | 9回
オンライン活動 | 4回
ワークショップ | 2回

オンライン配信

51回

講演会

1回

教育・講座

2回



台北馬偕記念病院公演（台湾）
日本メナード株式会社協賛による台湾ツアーが、
台北馬偕記念病院公演からスタートしました。



クリスマス大型ライブ（神奈川）
会場よりオンライン配信。



台北旭日ロータリークラブ公演
（台湾）

●「博報賞」を受賞

●「社会貢献者表彰」を受賞

●朝日新聞「be フロントランナー」に掲載

●クラウドファンディングを目標達成

10

11

12

2026年1月

2

3



1月

公演・WS

支援学校活動 | 7回
病院・福祉連携活動 | 4回
学校・企業向け活動 | 3回
オンライン活動 | 4回
ワークショップ | 3回

オンライン配信

43回

教育・講座

2回



江東区立有明中学校公演（東京）



一般社団法人ふたふぁ公演（沖縄）
オンライン公演でご縁が生まれ、
対面公演が実現。

2月

公演・WS

支援学校活動 | 2回
病院・福祉連携活動 | 4回
学校・企業向け活動 | 1回
オンライン活動 | 4回
ワークショップ | 2回

オンライン配信

29回

講演会

1回

教育・講座

4回



世界ダウン症の日を広めよう in 沖縄公演
ご協賛のヤクルトで乾杯。
子どもたちも装飾や準備を積極的に
手伝う場面も。



日本生命協賛こころだま公演
オンライン第2弾
画面越しに沢山の再会が生まれました。
リクエストの楽曲も届けました。



岡山県立早島支援学校オンライン公演

3月

公演・WS

病院・福祉連携活動 | 14回
地域・会場型活動 | 1回
オンライン活動 | 8回
ハイブリッド活動 | 1回

オンライン配信

39回



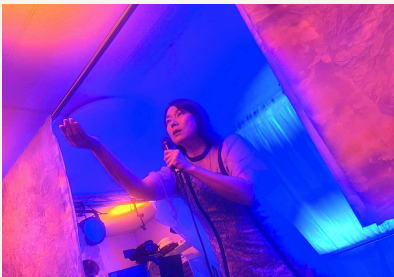
みんなで卒業式公演（ハイブリッド）



第3回ワクワクつながる祭典（神奈川）



ふたば・ふたば市原公演（千葉）



どうぶつの森キルト公演（滋賀）



全国へ、本物の舞台を届け続ける。

劇場に来られないなら、私たちが行けばいい。

病院、施設、学校、地域へ。

2025年度も、心魂プロジェクトは全国各地へ公演を届けました。

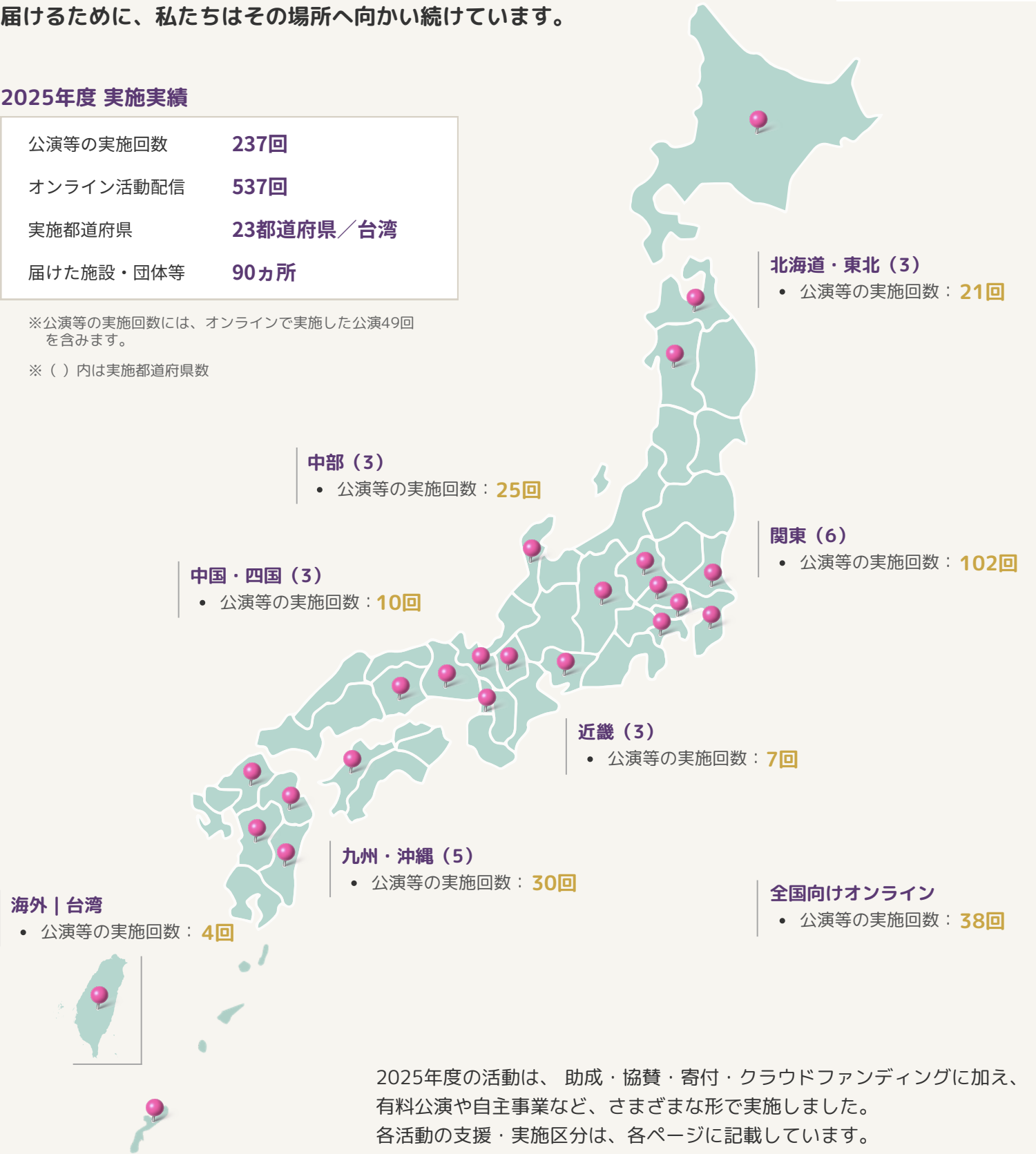
劇場に来ることが難しい子どもたちにも、心が動く本物の舞台体験を届けるために、私たちはその場所へ向かい続けています。

2025年度 実施実績

公演等の実施回数	237回
オンライン活動配信	537回
実施都道府県	23都道府県／台湾
届けた施設・団体等	90カ所

※公演等の実施回数には、オンラインで実施した公演49回を含みます。

※（ ）内は実施都道府県数



2025年度の活動は、助成・協賛・寄付・クラウドファンディングに加え、有料公演や自主事業など、さまざまな形で実施しました。各活動の支援・実施区分は、各ページに記載しています。



累計で、全国すべての都道府県に公演を届けました。

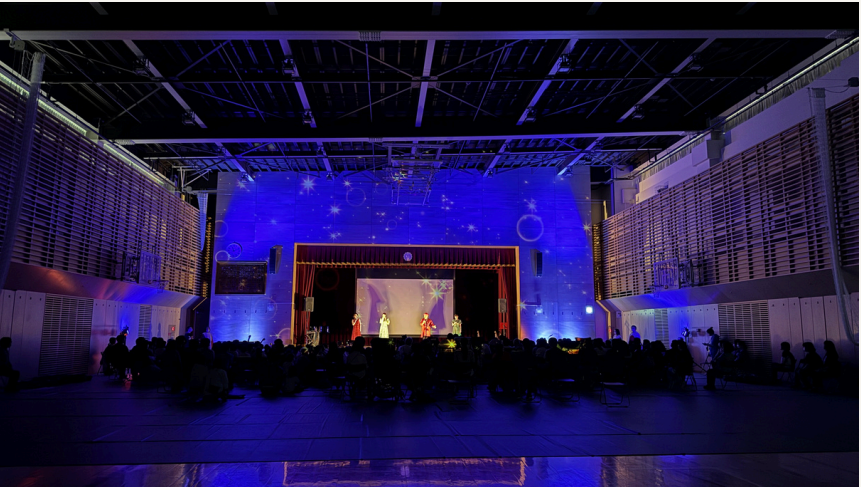
劇場に行くことが難しい子どもたちに、ころだま揺さぶる劇場体験を。

病気や障がい、医療的ケアなどの理由で、劇場に足を運ぶことが難しい子どもたちがいます。

日本生命保険相互会社のご協賛により、2025年度は全国の特別支援学校、施設へ訪問し、子どもたちがいつも過ごしている安心できる場所に、本格的な舞台芸術の時間を届けました。

体育館やホールが、照明・映像・音楽によって劇場空間へと変わる。

その体験は、多くの子どもたちにとって“人生で初めての劇場体験”となりました。



日本生命協賛ころだま公演 実施実績

全国 19カ所

(特別支援学校 15校・施設 4カ所)

対面公演 28回

全国版オンライン公演 2回

総体験者数 約5,300人

“いつも使っている体育館が、全く別の場所になったようで、光や映像の演出にも感動。涙が出るくらい感動しました。”

1. 安心できる場所へ訪問

いつも過ごしている学校や施設へ訪問し、移動負担や感染リスクの不安を減らして届ける。

2. 体育館を劇場空間へ

音響・照明・映像機材を持ち込み、会場ごとに調整しながら本格的な舞台体験をつくる。

3. 職員ボランティアと共に創る

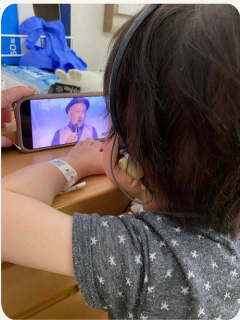
日本生命の職員が会場設営や子どもたちへの声かけなどに関わり、公演を共に支えた。

オンラインでも、“一緒につくる”公演へ。

日本生命協賛ころだま公演では、病室や自宅、施設などからも参加できるオンライン公演を2回実施しました。

第1弾は公式Facebookページで配信し、のべ約1,834名が参加。第2弾は申込制のYouTube限定公開で開催し、98件の申込、延べ75曲のリクエスト、約150名のお名前呼びのご希望が集まりました。

画面越しでも、ただ観るだけではなく、声を届け合いながら一緒につくる公演となりました。



この活動は、日本生命保険相互会社のご協賛により実施しました。



はじめましての出会いを、つながり続ける力に。

公益財団法人 日本財団寄付金支援事業「TOOTH FAIRYプロジェクト」のご支援により、2025年度も全国各地の子どもたちへ、オンライン公演と対面公演を届けました。

このプロジェクトの大きな力は、新たな出会いを生み出せること。

これまで出会うことが難しかった子どもたちやご家族、そして地域・施設・病院・支援団体へ、活動を届けることで、たくさんの“はじめまして”が生まれています。

オンラインでも、対面でも。

出会いを一度きりで終わらせず、その後もつながり続けられる関係を育てています。



“家族にとって初めてのコンサートで、想像以上に嬉しそうにリラックスして過ごせていたことが心から嬉しかったです。”

“オンラインにもかかわらず、話しかけてくれたり、一体感があり、あっという間の時間でした。”

2025年度 TOOTHFAIRYプロジェクト実施実績 ※（）内は体験者数または再生数

- | | | | |
|------------|---------------|-----------|----------------|
| 対面／オンライン公演 | 20回（約1,875人） | 小型オンライン公演 | 30回（54,998回再生） |
| 小児病棟での公演 | 5回（約310人）*入院児 | 大型オンライン公演 | 5回（12,946回再生） |
| 地方公演 | 13回（約1,465人） | | |

1. 新たな出会いを生み出す

TOOTH FAIRYプロジェクトのご支援により、これまでつながることが難しかった子どもたちやご家族、地域・施設・病院・支援団体へ、活動を届ける機会が生まれました。

2. オンラインでも、対面でも届ける

病室や自宅から参加できるオンライン公演と、同じ空間で出会える対面公演を組み合わせ、子どもたちの状況に合わせた参加の形をひらいています。

3. 出会ったあとも、つながり続ける

オンライン活動や特別公演の動画寄贈により、一度きりの公演で終わらず、子どもたちや施設との関係を継続しています。

この活動は、公益財団法人 日本財団寄付金支援事業「TOOTH FAIRYプロジェクト」のご支援により実施しました。



能登へ。ひとりではないと感じられる時間を。

震災後の地域へ、歌とパフォーマンスを。

野村グループ基金「みらい助成プログラム」の助成により、石川県・能登半島の支援学校、施設、病院など8カ所へ、8公演を届けました。

被災地や避難先で過ごす子どもたちとご家族へ、音楽と表現を通じて、“ひとりではない”と感じられる時間を届けることを目指しました。

見るだけでなく、声を出す、身体を動かす、前に出て表現する。

それぞれの方法で参加できる時間が、子どもたちの安心や挑戦につながっています。



1. 被災地へ、心が動く時間を届ける

地震の影響が残る地域で、子どもたちや家族が日常の不安から少し離れられる時間を届けました。

2. 見るだけでなく、表現する体験へ

歌う、踊る、身体を動かす、前に出るなど、それぞれの方法で参加できる公演を大切にしました。

3. 一度きりで終わらない関わりへ

助成公演に加え、仮設住宅やホテルでの自主公演、有料公演・講演などを通じて石川県を再訪。出会った地域の方々とのつながりを重ねています。

この助成公演は、野村グループ基金「みらい助成プログラム」の助成により実施しました。

台湾へ。病棟に、笑顔とまごころを届ける。

日本メナード化粧品株式会社のご協賛により、台湾・台北および新竹の小児病棟で、3公演を実施しました。

病棟の廊下に音楽とパフォーマンスを届け、入院中の子どもたち、ご家族、医療者の皆さまに、笑顔と心がふっと軽くなる時間を届けました。

また、台湾・旭日ロータリークラブでは講演会を実施し、心魂プロジェクトの活動や、病児・障がい児への舞台芸術体験の意義をお伝えしました。

“パフォーマンスのおかげで、子供の病気のことや現実のことを忘れられて、心がふっと軽くなった。”

“患者さんにとってすごく嬉しい体験、機会となりました。みなさんが日本からわざわざ来て、患者さんの心の健康のために応援してくれたり、支えてくれたりしていることがとても嬉しいです。”

台湾小児病棟での公演は、日本メナード化粧品株式会社のご協賛により実施しました。



秋田へ。地域で出会い、つながり、支え合う場をつくる。

横浜で育ってきた「ワクワクつながる祭典」を、地方版として秋田で開催しました。

難病児・障がい児・きょうだい児とご家族、支援団体、医療福祉関係者、地域の方々が同じ場に集い、パフォーマンスや出展、交流を通じて出会う2日間。

地域の中に、孤立しがちな家族や支援者がつながれる場をつくることを目指しました。



1. 地域に出会いの場をつくる

難病児・障がい児・きょうだい児とご家族、支援団体、地域の方々が同じ場に集う機会をつくりました。

2. 受け手から、共に創る存在へ

子どもたち自身のパフォーマンス披露や団体紹介を通じて、一人ひとりが場をつくる側として参加しました。

3. 地方版モデルとして広げる

横浜で育ってきた祭典を秋田へ展開。地域ごとの課題やつながりを活かした開催モデルが生まれました。

横浜で育った祭典を、地域へ。

横浜で開催してきた「ワクワクつながる祭典」は、難病児・障がい児・きょうだい児とご家族、支援団体、地域の人々が出会う場として育ってきました。

2026年3月には横浜大さん橋ホールで「第3回ワクワクつながる祭典」を開催。秋田での地方版開催は、この取り組みを地域へ広げる新たな一歩となりました。



実施実績（秋田）

- 開催日 2025年11月8日・9日
- 参加者 **333人**
- 出展団体 **9団体**

※参加者数は来場者・出展関係者を含む

実施実績（横浜）

- 開催日 2026年3月7日
- 参加者 **698人**
- 出展団体 **23団体**

この活動は、公益財団法人 日本財団寄付金支援事業
「TOOTH FAIRYプロジェクト」のご支援により実施しました。



見る人から、表現する人へ。

自分なりの方法で参加できる、表現の時間を。

心魂プロジェクトのワークショップは、子どもたちが“見る人”から“自分なりに参加する人”へ一歩踏み出す時間です。

歌う、踊る、楽器を鳴らす、身体を動かす、じっと見る、耳をすます、手を伸ばす。

参加のかたちは一人ひとり違います。

その子のペースや体調に合わせながら、「やってみたい」「できた」という気持ちが生まれる時間を大切にしています。

公演と組み合わせることで、安心して参加し、表現する体験へ。拍手を受ける経験や、誰かと一緒に楽しむ時間が、子どもたちの自信や次の挑戦につながっています。



“ワークショップがあったことで、子どもたちは安心して、期待感をもって翌日の本番を迎えられたように感じました。”

“自由に表現する、表現しようとしなくても一つの表現だという言葉に感銘を受けました。”

1. 自分なりの方法で参加できる

歌う、踊る、楽器を鳴らす、手を動かす、じっと見る、耳をすます、瞬きをする。どんな小さな反応も、その子だけの素晴らしいパフォーマンスとして受け止めることで、子どもたちが自分なりの一歩を踏み出すきっかけとなっています。

2. 安心して“やってみる”に近づく

公演前後のワークショップで表現にふれることで、出演者や空間に親しみ、安心して公演や活動に参加しやすくなります。

3. 自己肯定感と次の一歩につなげる

拍手を受ける経験、誰かと一緒に楽しむ時間、自分の表現を受け止めてもらう体験が、「これでいいんだ」「またやってみたい」という自己肯定感や次の挑戦を支えます。

実施実績

- 実施箇所 **16カ所**
- 実施回数 **21回**
- 参加者 **1,127人**

※各地の公演にあわせ、希望・スケジュールに応じて実施しました。

未来へつながる拠点を、みんなで育てる。

心魂研究所・法人拠点として始動。

2025年度、新たな法人拠点となった心魂研究所の整備を始めました。

それは単なる事務所や稽古場ではなく、次世代育成、研究、創作、オンライン配信を支える「未来の基地」です。

心魂研究所は、難病児・障がい児、きょうだい児とその家族に、より多くの選択肢を届け続けるための拠点です。次世代活動家や心魂プロパフォーマー、心魂キッズ団、Youth心魂、社会人パフォーマーなど、活動を担う人材を育て、病気や障がい、環境の違いに応じた表現を研究・創作する場。日本中・世界中の子どもたちとつながるオンライン基地としても、心魂のこれからを支えていきます。

みんなで手を動かしながら、拠点が形になっていく。

整備は、専門業者だけに任せるのではなく、心魂メンバーを中心に、片付け、DIY、修繕、環境づくりを一つずつ進めています。全国ツアーと並行しながら、活動を支える場所をみんなで育てています。



2025年3月 理想に近い物件と出会い、総会にて購入を決定
 2025年4月 法人拠点引渡し・整備開始
 2025年5-7月 メンバー・支援者と共に清掃・DIY・移転準備を実施
 2025年7月 法人拠点移転
 2025年8月 オンラインシアター防音室を移設
 2025年8-3月 全国ツアー（整備は一時中断）
 2026年春 稽古場制作・研究所整備を再開

- 清掃もDIYも、仲間と少しずつ。
- オンライン配信は、ここから全国へ。
- 機材の準備や積み込みも、みんなで担える形に。
- 子どもたちも、拠点づくりの仲間に。

この拠点を土台に、創作、研究、交流、次世代育成を深めていく。

心魂の活動を通して社会に新しい風穴を開け、子どもたちの未来に新しい選択肢を生み出す人が、次々と育っていくことを目指しています。

心魂研究所は、クラウドファンディングをはじめ、多くの皆さまのご支援により始動しました。

数字で見る心魂2025

2025年度、心魂プロジェクトは全国の病院・施設・地域・オンラインを通じて、延べ15,614人に表現体験を届けました。子どもたちが「観る」だけでなく「表現する」「誰かとつながる」機会を広げ、療養中の子どもと家族の孤立を和らげる活動を全国へ展開しました。

2025年度の主要実績

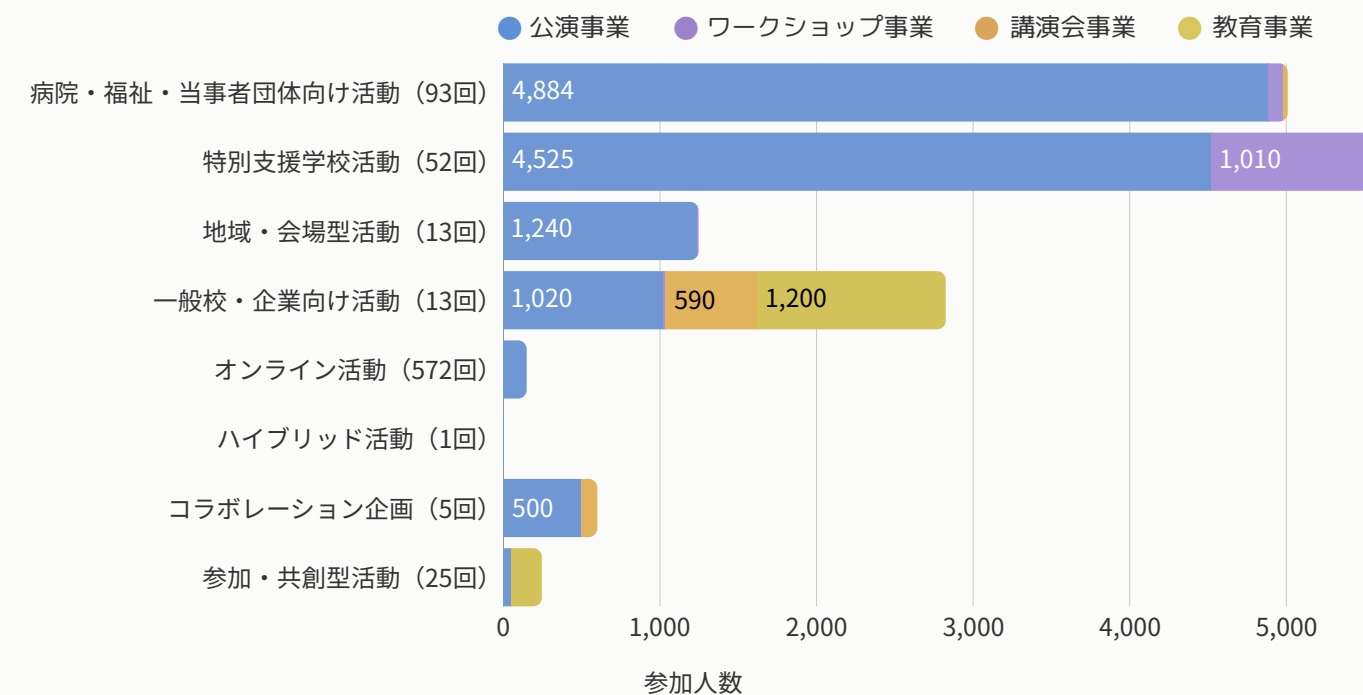
届けた回数 **774** 回

※実施・配信回数の合計 ※オンラインは有料プログラム「心魂TV」も含みます。

公演・WS等
実施回数**203** 回講演会・教育事業
実施回数**34** 回オンライン活動
配信回数**537** 回実施都道府県
23 都道府県 / 台湾参加人数
15,614 人実施した施設・団体等
90 カ所上演時間
46,107 時間オンライン再生回数
346,262 回※参加人数は前年より **+4,512** 人

事業別・活動区分別の内訳

事業別・活動区分別に見る参加人数 ※活動区分ごとの延べ参加人数



発信・参加・支援の広がり

- 発信 メディア掲載 **8件** / 公式Facebookフォロワー **5,379人** / 公式Facebook投稿数 **573件**
- 参加 心魂キッズ団・Youth心魂・きょうだい児・社会人パフォーマー **46人**
- 支援 協賛・助成・連携法人 **12件** / クラウドファンディング応援者 **179人**
- 評価 受賞 **2件**

子どもたちに生まれた変化

子ども・保護者・教育／医療関係者・学生などから寄せられたアンケート・感想文の自由記述446件を分析しました。そこから見えてきたのは、単なる「楽しかった」にとどまらない、子どもたちの表情・行動・自己表現の変化でした。

「観る」から、 「動き出す」へ。

「絶対参加しないだろうと思っていた息子が、『行く！』と一人で前へ。最後まで踊りきって、ニコニコしながら帰ってきました。全然予想していなかった息子の姿に涙が溢れました。」

子どもに生まれた変化
笑顔・発声・身体表現など、
その子なりの方法で「参加したい」が表れた。

家族に生まれた変化
普段見られない表情や反応に出会い、
子どもの新しい可能性を感じた。

支援者・関係者に生まれた変化
本物の体験が心を動かす力を実感し、
関わり方への気づきが生まれた。

次につながる声
応援したい、また届けてほしい
という声が寄せられた。

参加を支えた環境
安心できる場づくりと見通しが、
その子らしい表現を後押しした。

●アンケートに多く見られた言葉
子どもの変化
笑顔／楽しい／参加／できる／自分らしい表現
体験の価値
本物／歌声／感動／心に響く／参加できた／安心
心の動き
勇気／元気／命／ひとりじゃない／生きる力

寄せられた声から

- 「去年一年を通して、娘が一番笑顔になったのが心魂さんの公演でした。」
- 「本物の芸術に触れることは心情を豊かにするものですが、障がいのある子どもたちにとっては、なおさら心を揺り動かすものになると思っています。」
- 「『自分なりの方法で参加していいんだよ。どんな方法でもいいんだよ。』と言ってくださって、横にいる私自身の気持ちも安心して参加できました。」
- 「医療機器の音も気にせずに参加できたので、ケアしながら、ソーラン節も思いっきり踊れました。こんな幸せな日があるから、これからも辛い事があっても生きていけます。」
- 「どうしても、映画や舞台、コンサートなどを見に行くことができない子どもたちなので、近くに来てくれて、いつも自分たちが過ごしている安心な場所で、本物のステージを見せてもらえて良かったです。」

本物の体験は、子どもたちの「できる」を広げていた。

感想文・アンケートに表れた主な変化

ー自由記述で多く見られた上位3テーマー

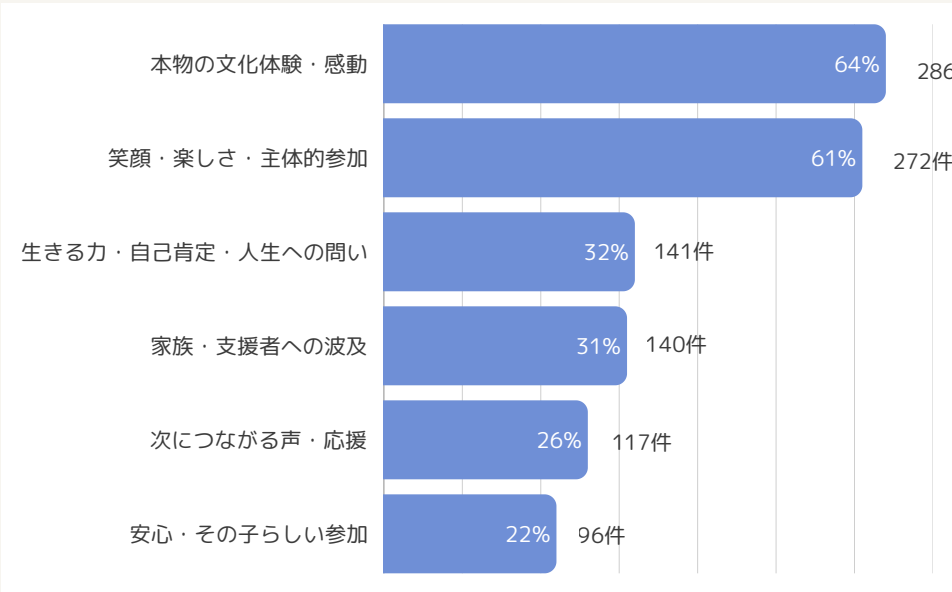
本物の文化体験に
心が動いた

笑顔や主体的な参加
が生まれた

生きる力や自己肯定
につながった

自由記述446件に見られた変化のテーマ

※1つの記述に複数テーマを含む場合があります。



子どもたちの変化を支えた3つの力

- 1. 本物の文化体験**
生の歌声、照明、映像、プロの表現が、子どもたちの感覚と心を大きく動かしました。
- 2. 誰も取り残さない空間づくり**
「どんな反応でもいい」「あなたのペースでいい」という空気が、安心と自己表現を支えました。
- 3. 本番前後の丁寧な関わり**
ワークショップによる見通しづくりや、一人ひとりへの声かけが、緊張を安心へ変えていました。

公演を支えるプロセスと、心の動きの広がり

- ワークショップ後の感想より**
ワークショップがあったことで、本番前に見通しを持つことができ、緊張がほぐれ、期待感をもって翌日の本番を迎えられました。
- 大学講義後の感想より**
自分のやりたいことをやることがどれだけ大切なことなのか、自由にやれる環境にいるのに行動しないことがどれだけもったいないことなのか改めて意識させられました。

心魂の公演は、鑑賞機会の提供にとどまらず、
子どもたちの自己表現、主体性、社会参加意欲を引き出す機会となった。

その変化は、家族や支援者の気づきとなり、
体験の機会を広げ、子どもたちが自分らしく生きる選択肢を広げていきます。

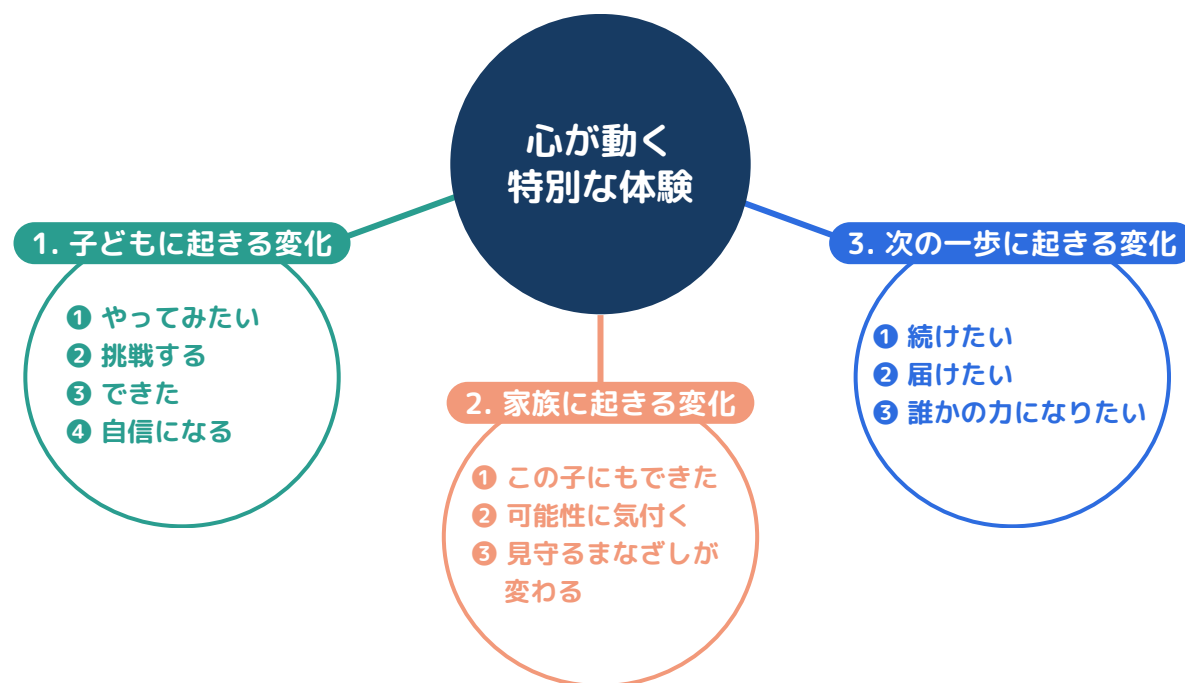
第2章 心魂の活動がもたらす変化

心が動くと、 子どもは一步を踏み出す。

「やってみたい」が生まれ、「できた」が自信になる。
その小さな一歩が、その子の未来と家族のまなざしを変えていく。

心魂が届けているのは、その日限りの楽しい時間だけではありません。
歌、踊り、光、音、人との関わりの中で、子どもたちの中に「やってみたい」という気持ちが生まれます。
その小さな一歩が、「できた」という経験となり、自信や自己肯定感、次の挑戦へとつながっていきます。

心魂の現場で生まれる3つの変化



心魂の現場で生まれている変化は、一度きりの反応ではなく、
子どもたちが自分の未来を選び始めるプロセスです。

心が動いた瞬間が、その子の次の一歩を生み出していく。

CACE 01 | 参加する側から、生み出す側へ

安心できる居場所が、 表現する力をひらいた。

当たり前の経験が少なかった少女が、
仲間と出会い、
自分の想いを舞台へ届ける人になっていく。

重い心臓病と向き合い、感染リスクから外出や集団生活に大きな制限がある果歩さん。
友だちと練習すること、舞台に立つこと、自分の気持ちを表すこと。
同年代の子どもたちにとって当たり前に見える経験が、彼女にはほとんどありませんでした。

心魂のワークショップで出会ったのは、安心して参加できる場所と、表現を共にする仲間たち。

その出会いが、彼女の中に少しずつ「やってみたい」という気持ちを生み出していきました。



重宗 果歩さん

(プロフィール)
心魂キッズ団メンバー。
9歳で心魂プロジェクトと出会い、
現在は振付・歌・舞台表現に取り組む。

居場所から、生み出す側へ

最初は、同じ場にいること、友だちと練習すること、舞台に立つこと。
その一つひとつが、彼女にとって大きな挑戦でした。
安心できる居場所で重ねた経験が、少しずつ「やってみたい」という気持ちを育てていきました。

01 安心できる居場所に出会う

心魂ワークショップという「仲間の一員」と感じられる場所に出会った。

02 自分の意志で踏み出す

体調や感染症リスクなど不安の中でも、自ら舞台へ向かった。

03 想いを表現する

振付や歌で、言葉にしきれない気持ちを届けた。

04 生み出す側へ進む

創作した振付が、全国の舞台で受け継がれている。



生きる喜びを、表現に変えて

彼女は、かつて今も、決して体調が安定しているわけではありません。吐き気や腹痛、強い倦怠感で、布団の上で横になり続ける日もあります。それでも彼女を突き動かしたのは、たったひとつの想いでした。

「わたしも、踊りたい。」

心魂プロジェクトに出会った頃の彼女は、母親の影に隠れ、怯えながら会場に入ってきました。人と関わることは得意ではなく、コミュニケーションはうなずくか、わずかな一言だけ。

けれど、ワークショップを重ねるうちに、少しずつ変化が生まれます。

目線が上がり、表情がやわらぎ、声にならない感情が身体からにじみ出るようになりました。そしてついに彼女は、観客の前で、自分の意思でマスクを外し、舞台上に立ちました。

当時9歳だった彼女にとって、それは初めて、自分で決め、自分の足で踏み出した「成功体験」でした。「できた」という感覚は、彼女の中に新しい力を生みしました。

2019年、彼女は心魂キッズ団の一員としてデビューします。

コロナ禍で対面活動が止まる中でも、彼女はどんなときも真っ先に「やりたい！」と手を挙げていました。やがて彼女は、プロメンバーの歌に合わせ、自分で振付を考え、パフォーマンスとして届ける挑戦を始めます。

与えられた振りを覚えるのではなく、ゼロから創り出し、自分の想いを身体で表現する。それは、彼女にとって大きな一歩でした。

「言葉では伝えられない気持ちも、身体でなら届けられる」

振付という新たな表現手段を得た彼女は、次に「自分の“声”で、想いを届けたい」と願いました。

「強くなれる理由を知った」という歌い出しで始まる楽曲『紅蓮華』に、彼女はこれまでの療養生活や葛藤、そして希望を重ねました。

そして、自ら録画した歌唱動画を心魂プロジェクトに提出。

その真っすぐな姿勢は、キッズ団初となる「ソロ歌唱配信」へとつながりました。

「わたしみたいに病気や障がいがあっても、できることはある。

わたしなんか…って思ってる子に、“あきらめないで”って伝えたい。」

そして彼女は、心魂プロジェクトの楽曲「いのちのうた」に振付をつける挑戦へ進みます。

かつては「私はいい」「やらない」と一歩引いていた彼女が、このときは迷いなく答えました。

「やりたいです！」

完成した振付は、今では全国各地の舞台で披露される代表作のひとつとなっています。

現在、彼女の創作した振付は複数存在し、「届ける側」から、舞台作品を“生み出す側”へと歩みを進めています。

「できない、やれない」ではなく、
「あきらめないでほしい。」

わたしのようになんか病いがあるけど、できることはある。
後悔ないように生きることで、わたしは“今”がすごく楽しい。」

今も彼女は、大きな病と向き合いながら、表現を通じて「いのちがけのメッセージ」を発信し続けています。



CACE 02 | 視線で選び、視線で届ける

視線が、想いを届ける言葉になる。

「できた！」という表情が、
本人の自信となり、家族のまなざしを変えていく。

発話や身振りで意思を伝えることが難しかった悠翼さん。
心魂キッズ団で出会ったのは、「できないこと」ではなく、
「できること」から表現を生み出す関わりでした。

その子に合った表現の入口を、あきらめずに探す。

視線で描くアートには、本人の気持ちや空想の世界が込められています。

それは、悠翼さんにとっての大切な“言葉”です。



畑中 悠翼さん

(プロフィール)

心魂キッズ団メンバー。

青森在住の高校2年生。

現在は視線入力により表現活動に取り組んでいる。

視線でひらいた、4つの変化

まさか、言葉も体も自由でない息子が、
パフォーマーとして活動できるとは思いませんでした。 ～お母さまより～

01 できることに目を向ける

歌う・踊るだけではない、その子なりの表現の形を見つける。

02 視線で想いを描く

音楽に合わせ、視線入力で気持ちや空想の世界を表現する。

03 家族のまなざしが変わる

「できた！」という表情が、家族に新しい可能性を気づかせる。

04 自分で選び、観客へ届ける

活動を続ける意志を視線で示し、青森公演では観客の前で想いを届けた。



支えられる側から、 未来を支える側へ。



心魂に出会い、きょうだい児として見てきた景色。
その経験を、今度は誰かの心を動かす力に変えていく。

病気や障がいのある子ども本人だけでなく、そのそばにいるきょうだいにも、心魂との出会いは深く影響していきます。

穂乃果は、きょうだい児として心魂の活動に触れ、その経験を自分自身の挑戦へと変えようとしています。

この春からは、心魂のプロメンバーを目指す育成メンバーとして、新たな一歩を踏み出します。

きょうだい児/育成メンバー
中山 穂乃果さん

2022年冬。

愛媛県で活動する施設へ向けた心魂オンライン公演に、画面越しに目をキラキラと輝かせながら参加している二人の姉妹がいました。

メチルマロン酸血症という代謝異常の難病を抱えているゆいかさんと、3歳上の姉である穂乃果。

穂乃果は、きょうだい児として、寂しい気持ちや不安な気持ちを抱えながら生きてきました。

「辛い」「寂しい」「悔しい」経験は、輝くための「ちから」になることもある。

痛みを知り「ちから」を持つ子どもたちの中から、社会を導く人財が生まれる。

私たちはそう信じています。

2023年、第2回目のきょうだい児合宿メンバーとして選ばれたのが、穂乃果でした。

彼女を選んだ理由は、「まっすぐな目」「ブレない意思」に希望を感じたからです。

合宿後、穂乃果は「心魂をもっと本気でやりたい。大人になっても続けたい」と願うようになり、プロメンバーを目指すことを私たちに伝えてきました。

高校の夏休み中には、TOOTH FAIRY様のご支援による育成枠を活用し、実際にツアーに帯同してもらい、心魂の活動を体感してもらいました。

穂乃果は、このツアーを通じて心魂の真髄に触れ、全国の皆様と出会いながら、たくさんのことを吸収していきました。

何をするにもまず大切なのは「心」。

心魂プロジェクトという名前の通り、私たちが重要視するのは、まず「どんな心の持ち主か」ということです。

当時、まだ穂乃果は高校生でしたが、自分が心魂でパフォーマンスをすることの意味をよく理解し、全力で体当たりする力を有していました。

しかし、高校卒業後すぐに上京し、研究所で他の専任プロメンバーと共同生活をしながら、専任のプロメンバーを目指すとしたことは、容易なものではありませんでした。

穂乃果は長年、言語聴覚士を目指してきました。

彼女が思い描くペースで心魂を目指すなら、それにはかなりの時間がかかります。

寺田は、彼女の覚悟を確かめるように、「長い時間は待てないよ」と彼女に伝えました。

心魂で必要とされているのは、

「すべてをかけて、この活動を必要とする方々のために向き合える人」であり、

「あれもこれも望んでいる人」ではないのです。

穂乃果は、長い時間悩みました。

言葉を濁す穂乃果に、寺田は「もう無理だね。学校に行きなさい」と伝えたこともあります。

それでも彼女は、

「学校に行かずに心魂に行きたい。私が願っているのは専任メンバーです。」

と強い意志を示しました。

私たちは、そんな素晴らしい才能を預かることになったのです。

我々も、覚悟をもって彼女の人生を背負っていくことを決めました。

この春から、穂乃果は人生の新たなスタート地点に立っています。

心魂の近くに行けば行くほど、専任メンバーへの道は遠く感じることもあると彼女は言います。

しかし、それでも、ブレない覚悟を決めた今、恵まれた環境に感謝しながら、必要なものを貪欲に、楽しみながら吸収しようと目を輝かせています。

一人の変化を未来へ受け渡すために、心魂は日々の関わりを積み重ねています。

一人の変化を、再現できる力へ。 心魂が現場で育ててきた、6つの関わり方。

子どもたちの表現は、一つの方法だけでは引き出せません。

体調、感覚、伝え方、安心できる距離感は、一人ひとり異なります。

その子に合った「できる形」を探す。

その積み重ねを、6つの関わり方として整理しました。

6つの心魂メソッド

01 安心できる入口をつくる

体調・感覚・感染リスクなどに配慮し、その子が参加できる形を整える。

04 本人の意志を受け取る

表情、視線、身体の動き、言葉にならないサインを受け取り、本人が選ぶ機会をつくる。

02 参加の形を一つに決めない

歌う、踊る、見る、選ぶ、描く、視線で伝える。どんな関わり方も表現として受け止める。

05 挑戦できる余白をつくる

うまくいく・いかないで評価せず、チャレンジしたこと自体を大切にする。

03 「できること」から表現を生み出す

できないことを前提にせず、その子の中にある力を見つけ、その子らしい自己表現へつなげる。

06 家族のまなざしも変える

子どもの新しい一面を家族が見ることで、「この子にはできることがある」という実感が生まれる。

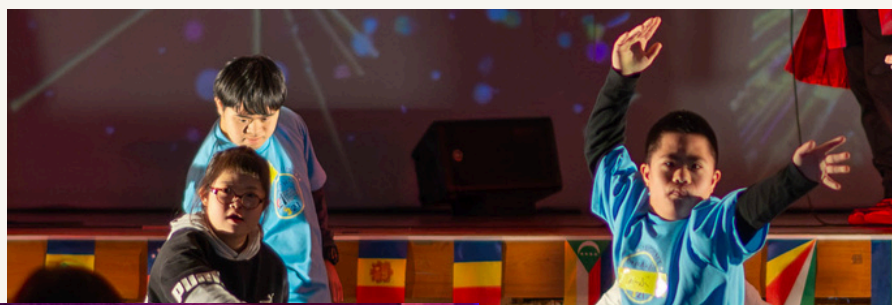
心魂が現場で積み重ねてきた関わり方は、子どもたちの表現を引き出すための大切な知見です。

今後はこの知見を整理し、教育・福祉・企業など、より多くの現場で活用できる形へと育てていきます。

第3章 心魂プロジェクトの活動紹介

届ける | 公演事業

劇場空間を届ける



どんな形でも
表現が“参加”になる。

誰もが“観る側”ではなく、
“舞台の一部”になれる。

夢中になって踊る子。
その姿を、嬉しそうに見つめる子。
そっと見守り、ほほえむ先生。

劇場空間に来るのが難しいなら、私たちが行けばいい

歌や踊りを届けるだけでなく、
目の前の一人ひとりの反応や想いを受け取り、心を通わせながら、
ともにつくる舞台を大切にしています。

あらゆる場所を 劇場空間に

「病室も、病院の廊下も、体育館もどこでも劇場になる」劇場に行くことが難しい子ども達がいる場所へ。あらゆる場所に劇場空間を創り出します。

映像と照明が 生み出す世界観

いつもの場所が別空間に変わる照明、
一瞬で世界に誘うための映像を駆使した公演をお届けしています。

双方向な公演

パフォーマンスを通じて心と心の温度をあわせることを重視した公演を行っています。
心臓の鼓動、瞬き、指先の動き。声を出したくなったら出そう、心が踊りたくなったら踊ろう。子ども達から自然と生まれる表現を大切にしています。

大切にしている 公演スタイル

声の振動を感じてもらいたい、迫力のダンスを目の前で体感してもらいたい。
手のぬくもりを感じあう、想いを寄せあう。
「言葉に頼らなくても心と心は通じあう」。そんな公演スタイルを大切にしています。
(お客様の安心を優先して距離感を工夫しています。)

劇団四季・宝塚出身の俳優を中心に、全国・海外の病院や施設、学校などで活動しています。

つながる | オンライン(コミュニケーション)事業

どこにいても、心がつながる場所。

病気や障がいにより、外出が難しい子どもたちや、長い時間を病室で過ごす子どもたちがいます。
そうした子どもたちやご家族の「心の命を守る」「孤独にしない」ために、誰でも安心して参加できるオンラインの無料配信や、年間有料プログラム「心魂TV」を運営しています。
様々な番組配信のほか、オンライン公演や大型ライブなどもお届けしています。



コメントを通して、
視聴者同士の交流が生まれています。

会場とオンラインが、
一緒につながる時間も。



病室でも、自宅でも、
安心してつながれる“居場所”を届けています。

「できない」で終わらせず、
自分・後から続く仲間への
道を切り拓く。

① 表現者の育成

心魂プロジェクトでは現在、4つのカテゴリーで育成を行っています。メンバーはそれぞれ、与えられた条件に屈することなく、自らの意志で挑戦を重ねながら、“心を届ける表現”を学んでいます。技術だけではなく、一人ひとりと向き合いながら、心と心をつなぐ表現者として、ともに舞台をつくることを大切にしています。それぞれに合わせた課題（ハードル）へ挑戦し、「できた」という成功体験を積み重ねることで、自信や自己肯定感も育んでいます。



心魂の表現者としての心得

- 心を開く
- 与えられるのではなく、自らつかみ取る
- 未来の選択肢を生み出す

② 活動家の育成

未来を切り拓く、 次世代の活動家へ。

心魂では、持続可能な活動として未来へつないでいくために、次世代の担い手育成にも取り組んでいます。活動の中で求められるのは、技術ではありません。「誰のために活動するのか」という強い信念を持ち、自ら考え、行動し続ける力を大切にしています。2025年度、育成メンバーとして活動してきたきょうだい児パフォーマーが、2026年度春からプロメンバーとの共同生活をスタートしました。表現活動に加え、活動運営やビジネススキルなども学びながら、心魂の理念や実践を受け継ぐ活動家としての本格育成が始まっています。強い意志と覚悟を持って挑戦する活動家育成メンバーと深く向き合い、未来を担う存在として大切に育てています。

難病児・障がい児・きょうだい児・ご家族の選択肢が増え、 「やれない」が「やれる」に変わる社会を目指します。

私たちは、未来に生まれてくる子どもたちにも選択肢が広がる社会を目指し、今できることを一つひとつ積み重ねています。

病気や障がいのある子どもたちやご家族が、自分らしく生きることをあきらめずにすむように。企業や学校との連携による歌や踊りのパフォーマンス公演、対談、キャリア教育、講演会、チャリティイベントなどを通して、子どもたちとご家族の声や日常を社会へ届けています。

その姿に触れた人たちが、「その子に合ったできる形がある」という新たな視点や価値観に出会い、「知る」きっかけが広がっています。

誰かの理解が深まることで、「やれない」と思われていたことが、「やれる」未来へ変わっていく。その小さな変化の積み重ねが、多様な可能性が尊重され、誰にとっても生きやすい社会につながると信じて、私たちは様々な形で想いを届け続けています。



一般企業へのパフォーマンス公演



「いのちの授業」普通校公演



対談イベント



キャリア教育公演



講演会



チャリティイベント



チャリティコンサート

“守られる存在”から、 社会へ想いを届ける存在へ。

2023年より、病気や障がいを抱える当事者の子どもたちも、公演やチャリティ活動に出演し、自分の想いや言葉を社会へ届ける活動が始まっています。

「やりたい」という気持ちがあっても、病気や障がいによって、やりたくてもやれない現実があります。しかし、“やれる形”があれば、経験できることや挑戦できることは大きく広がります。

「やってもらう存在」ではなく、自らの想いや存在を社会へ届ける存在へ。

表現を通して生まれるその一歩が、子どもたち自身の選択肢を広げ、社会との新しいつながりを生み出しています。

教育・企業・社会へ広がる心魂

子どもたちの変化が、社会に新しいまなざしを生む。

心魂の活動は、子どもたちのためだけで終わりません。

「できない」と決めつけない関わり方、誰も取り残さない参加の工夫、小さな表現を受け止めるまなざしは、教育・企業・地域社会にも新しい気づきを生んでいます。

01 教育へ 一人ひとりの「伝える力」を引き出す実践として

難病や障がいのある子どもたちに本格的な舞台芸術を届け、心が動く体験や自分らしさを発揮できる時間をつくる。心魂キッズ団では、一人ひとりの個性や特性に応じた表現活動を工夫し、「伝える力」を引き出しています。
その実践は、主体性や自己肯定感を育む活動として評価されています。

実績例：博報堂教育財団 博報賞受賞

02 企業へ 支援から、共につくる関わりへ

企業との連携は、資金的な支援にとどまりません。
公演の実現、地域への展開、社員の参加を通じて、心魂の活動は企業の社会参加や共生への学びにもつながっています。

実績例：協賛公演・海外公演支援・企業ボランティア

03 社会へ 活動の価値が、広く伝わりはじめている

受賞やメディア掲載を通じて、心魂の活動は社会にも届きはじめています。
プロの舞台表現を届けるだけでなく、子どもたち一人ひとりの反応や参加を大切にする実践は、見る人・関わる人に新しいまなざしを生んでいます。

実績例：社会貢献者表彰／新聞・メディア掲載

2025年度、心魂の活動は社会からも評価と共感を集めました。



教育的実践として評価された「博報賞」受賞

| 第56回 博報賞 受賞（博報堂教育財団）

心魂プロジェクトは、児童教育現場の活性化と支援を目的とする第56回博報賞を受賞しました。本格的な舞台芸術を届ける活動に加え、心魂キッズ団で一人ひとりの「伝える力」を引き出している点が評価されました。

審査委員コメントより | 評価されたポイント

子ども一人ひとりの「伝える力」を引き出そうと、個性や特性に応じた表現活動を個々に工夫することによって、子どもの主体的な取組が生まれ、自己肯定感を高める活動である点も高く評価された。

保護者の声 | 博報賞受賞に寄せて

「話すだけが『ことば』じゃない。
声でも、視線でも、わずかな動きでも、
すべてがその子の“ことば”なのだと思います。」



メディアを通じて広がる活動

| 朝日新聞 土曜版 be フロントランナー 掲載

心魂プロジェクト共同代表・寺田真実の歩みと、病気や障がいのある子どもたちへ公演を届ける先進的な取り組みが紹介されました。（1面・3面に掲載）



朝日新聞 2026年2月14日掲載

※朝日新聞社に無断で転載することを禁止する（承諾番号 26-1171）

| TBS news23 全国放送

密着取材を通じて、心魂プロジェクトの活動が約10分にわたり紹介されました。



2025年度の 主な受賞・掲載・連携

●受賞

- 第56回 博報賞
- 第64回 社会貢献者表彰

●メディア掲載

- チバテレ（7月23日）
- TBS news23（8月23日）
- 広島ニュースTSS（9月25日）
- 中国新聞デジタル（9月25日）
- 房日新聞（9月26日）
- あいテレビ（11月6日）
- 朝日新聞（2月14日）
- 朝日新聞（3月8日）
- 神奈川新聞（3月18日）

●企業・基金との連携

- 日本生命保険相互会社
（日本生命協賛こころだま公演協賛）
- 日本メナード化粧品株式会社
（台湾小児病棟公演支援）
- 野村グループ基金
（石川県・能登半島ツアー公演支援）

12年間の歩み、そしてこれから

12年間、届け続けてきた先に、次の心魂が始まる。

12年間の歩み 小さな出会いから、全国・海外へ広がる活動へ。

2014年
法人設立。難病児・障がい児に公演を届け始める。
まだ誰も心魂の名を知らない中、「本物の舞台を届けたい」という信念を胸に、公演12回・ワークショップ2回から歩み出した。

2016年 初の海外公演

2016年 定期ワークショップ開始

2018年 社会人パフォーマー発足

2019年 心魂キッズ団発足

2019年 オンライン事業立ち上げ

2020年
日本財団のご支援により、オンラインシアターを設立。
コロナ禍で活動の形を変えながら、「孤独にしない」「心の命を守る」という想いで毎日オンライン配信を続け、年間配信数は963回に。

2022年 Youth心魂発足

2023年 シブリングパフォーマー発足

SDGs ジャパン
スカラシップ 岩佐賞

第76回 保健文化賞
第22回 読売福祉文化賞

2025年 心魂研究所設立

第56回 博報賞
第64回 社会貢献者表彰

2026年
未来の子どもたちへ、選択肢を生み出す次の10年へ。

12年間で積み重ねてきたこと

劇場に来られない子どもたちへ、本物の舞台と、心が動く特別な体験を届ける。
心魂は、病院、施設、学校、地域、オンラインへと届け方を広げながら、一人ひとりの「できる」を信じる活動を続けてきました。

12年間の累計 (2014年1月～2026年3月)

公演実施地域 国内 47 都道府県 海外 台湾・ミャンマー	公演実施団体 788 団体	体験数 対面 81,705 人 オンライン 1,232,709 再生 ※対面は延べ参加人数
公演回数 対面 1,033 回 オンライン 611 回	オンライン配信 3,921 回	

12年間の歩みを土台に、心魂は次の10年へ。
心が動く体験を届け続け、一人ひとりの未来に新しい選択肢を生み出していきます。

そしてこれから 子どもたちの未来の選択肢を、もっと広げるために。

未来の柱

01 全国へ届け続ける

病院・施設・学校・地域へ、公演とオンラインを組み合わせ続けて届け続ける。

02 次世代を育てる

心魂キッズ団、Youth心魂、社会人パフォーマー、次世代活動家を育てる。

03 研究・創作を深める

病気や障がい、環境の違いに応じた表現・参加の形を研究し、現場へ還元する。

04 社会へ広げる

教育・企業・地域と連携し、誰もが自分らしく表現し、生きる選択肢を広げられる社会へのまなざしを育てる。

これからの心魂へ



国内外問わず、心魂の「心と心で響き合う劇場空間」を真に必要とする方々の元に向かうことを更に突き進め、次世代の牽引者(活動家)を育成し、それらを継続的に行うための経済基盤の確立を進めます。
また、難病児・障がい児・きょうだい児・ご家族が当事者でない方々や社会と共に生き合うためのコラボレーションプロジェクトを推し進めます。
更に様々な生きにくさを抱えたこども達への活動にもキッズ団と進み、知り合い・輪を広げ、共に歩む流れを少しずつ社会に生み出していきたいと考えています。

特定非営利活動法人 心魂プロジェクト
共同代表 寺田 真実

第5章 支えてくださった皆さまと、これから

皆さまのご支援に感謝を込めて、2025年度の会計と、これからの活動計画をご報告します。

※2025年度会計報告および2026年度事業計画は、総会で承認された内容です。

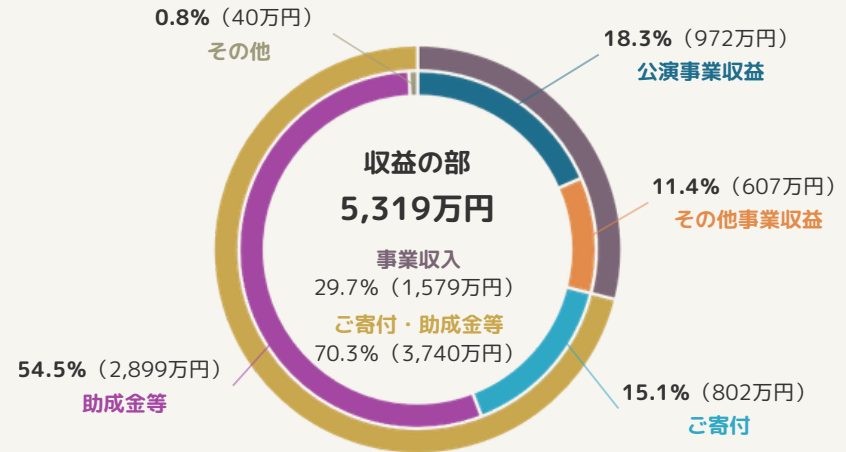
2025年度会計報告

ご支援は、子どもたちに届く活動へ

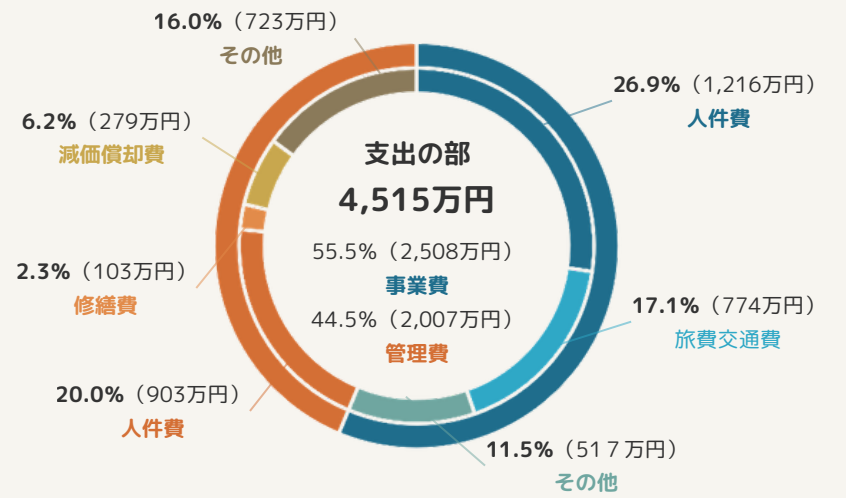
皆さまからのご支援は、訪問公演・オンライン配信・表現ワークショップの制作費、移動交通費、配信環境の整備、人材育成、運営基盤の強化に大切に活用しました。

勘定科目	2024年度	2025年度
自主事業		
公演事業	14,999,700	9,723,137
ワークショップ事業	219,501	0
講演会事業	367,080	200,000
作品制作・販売事業	1,433,266	635,456
教育事業	2,582,420	2,227,157
その他収益	6,180,305	3,004,372
他収益		
受取会費	65,000	168,000
受取寄付金	10,536,735	8,016,228
受取助成金等	13,450,610	28,988,000
受贈益	60,431	232,026
施設等受入評価益	77,100	0
経常収益 計	49,972,148	53,194,376
事業費		
人件費	10,425,030	12,164,548
旅費交通費	3,503,817	7,739,745
印刷製本費	268,327	646,448
広告宣伝費	100,000	0
車両費	175,035	348,565
通信運搬費	113,564	150,146
消耗品費	173,976	298,658
水道光熱費	72,144	49,628
地代 家賃	2,094,400	728,328
賃借料・会場費	2,029,461	1,569,800
作品制作費・機材費	10,790	363,890
その他	1,069,221	1,017,491
事業費 計	20,035,765	25,077,247
管理費		
人件費	7,407,632	9,028,988
車両費	587,344	487,789
通信運搬費	254,449	639,880
消耗品費	256,141	984,301
地代 家賃	1,303,780	669,180
修繕費	47,410	1,025,964
租税公課	763,800	1,077,876
支払手数料	1,208,815	1,871,591
減価償却費	2,525,741	2,790,394
その他	1,972,283	1,499,393
管理費 計	16,327,395	20,075,356
当期経常増減額	13,608,988	8,041,773
当期正味財産増減額	13,458,997	7,773,253
前期繰越正味財産額	△390,569	13,068,428
次期繰越正味財産額	13,068,428	20,841,681

収益の内訳



支出の内訳



会計報告の補足

2025年度は、協賛金・助成金等のご支援により、経常収益は前年度を上回りました。

一方で、法人拠点施設「心魂研究所」の取得・整備に伴い、整備作業や引越し等に時間と人員を充てる必要があったため、有料公演の実施は限定的となり、結果として「公演事業収益」は減少しました。また、ワークショップについては、公演と一体で実施する形が中心となったため、単独事業としての計上は限定的となりました。

支出面では、全国各地及び台湾での活動実施、機材運搬、宿泊費・交通費等の高騰の影響により、旅費交通費が増加しました。また、活動拡大に伴う出演・運営体制の強化により、人件費も増加しています。

一方で、法人拠点施設「心魂研究所」の整備により、これまで使用していたオンラインシアターに係る家賃負担が減少し、一定の固定費圧縮にもつながりました。あわせて、心魂研究所の整備に伴い、修繕費や通信運搬費等の一時的な支出が発生しました。

今後も、収益構造と支出のバランスを確認しながら、持続可能で透明性の高い運営に努めてまいります。

2026年度事業計画

拠点をつくり、表現者を育て、体験を届け続ける

2026年度は、これまで積み重ねてきた活動をさらに発展させ、子どもたちや次世代メンバー自身が“表現者”“発信者”として育っていく環境づくりを進めます。法人拠点施設「心魂研究所」の本格整備を進め、稽古・育成・作品制作・配信・交流の拠点として活用するとともに、対面・オンライン・ハイブリッド型の活動を通じて、病室・施設・自宅等からも参加できる環境づくりを継続します。

2026年度の重点方針

01 心魂研究所の本格整備

稽古場を完成させ、育成・作品制作・配信・交流の拠点として活用します。

02 次世代・当事者メンバーの育成

次世代を担う人材・表現者を育てる環境を整備します。

03 公演・作品制作の質の向上

新作制作、既存作品のブラッシュアップ、演出・音楽・映像等の強化を進めます。

04 企業・財団等との協働強化

協賛、公演、社員ボランティア、共同企画、発信等を進めます。

05 千葉県内での地域展開

大型イベントや地域連携活動を本格化し、千葉県に根ざした活動基盤を形成します。

06 オンライン・ハイブリッド活動の継続発展

病室・自宅・施設から参加できる配信活動を継続します。

07 持続可能な運営基盤の強化

助成・協賛・寄付・自主事業・販売事業のバランスを整えます。

主な事業 公演活動／ワークショップ／講演会・研修／作品制作・販売／教育プログラム

受益対象者等

- 病院・施設・団体向け公演 **10,000人**
- 一般・学校向け公演 **2,000人**
- ワークショップ **1,000人**
- 講演会・研修 **1,000人**
- 作品制作・販売 **500人**
- 教育プログラム **100人**
- オンライン再生回数 **300,000回**

心が動く体験を、届け続けるために

未来へ向かう活動の**経済基盤**を、共に支えてください。



私達の活動は、継続的な公的補助に依存するものではなく、毎年、寄付・協賛・助成・事業収入などを組み合わせながら、活動資金を集めて行っている活動です。

プロのパフォーマーが、届ける対象を明確に決め、劇場空間をどんな場所にもデリバリーする。

時たま行うのではなく、一年を通して、日本中、そして時には海外にも向かう活動です。

「劇場でお客様を待つ」のではなく、
「私達の劇場が、皆さんの場所に向かう」
それが、心魂プロジェクトの活動です。

共同代表 寺田真実より

私達はこの12年間、難病児・障がい児・きょうだい児、ご家族、そして医療福祉の現場の皆様と出会い続けてきました。その中で強く感じてきたのは、命や障がい、環境と日々向き合っている子どもたちにこそ、心が動く本物の非日常体験を届けたいということです。

しかし現実には、毎年、年始・年度末が近づく頃になると、資金面で無事に年度を越えられるだろうかと不安を抱えながら進んできた12年間でもありました。

新しい年度に向けて、
「さらにこんなチャレンジをしよう」
「そのために新しい演出に使える機材を準備しよう」
「よりクオリティの高い機材を購入し、子どもたちにより上質なパフォーマンスを届けよう」
そう思っても、日々の活動を継続することで精一杯になり、未来に向けた準備に十分な予算をかけることが難しい状況があります。

例えば、私が劇団四季に在籍していた時に使用していたマイクは、1本100万円以上するものでした。もちろん、私達が常にそのような高額機材を必要としているということではありません。けれど、良い機材を使うことで、良い音が届けられるのは事実です。

病室、体育館、福祉施設、屋外、地域の会場。
私達が向かう場所は、劇場のように音響や照明の環境が整っている場所ではありません。
だからこそ、どんな環境でも子どもたちに歌声や台詞、音楽の温度、心の温度がきちんと届くようにするためには、活動に適した機材への投資が必要です。

命・障がい・環境といった様々なものと毎日向き合っている子どもたちにこそ、ナンバーワンであり、オンリーワンである体験をデリバリーしたい。
私達は本気でそう願っています。

私達の口座に、活動のために柔軟に使える資金が最低でも1000万円ある。
そのような活動基盤ができれば、年度ごとの資金繰りに追われるだけではなく、新しい技術や演出を活動に取り入れ、よりワクワク・ドキドキし、心が動く体験活動、劇場空間デリバリー活動を行うことが可能になります。

それは、単に団体の運営を安定させるためだけのお金ではありません。
子どもたちに届ける公演の質を高めるための資金であり、より多くの地域へ向かうための資金であり、必要としてくださる現場に継続して応え続けるための活動基盤資金です。

また、私の代、初代だけでこの活動が終わることがないよう、人材の育成にも予算が必要です。

心魂プロジェクトには、一流の舞台経験を重ねてきた講師陣がいます。
そして、私達のレッスンを受けたいと思ってくださる難病児・障がい児・きょうだい児がたくさんいます。

その子たちが将来、必ず活動家になるとか、プロになるとか、そういうことだけが目的ではありません。
表現に出会うこと。
自分の声や身体・心で何かを伝えること。
誰かと一緒に舞台をつくること。
その体験そのものが、子どもたちの人生の中で大きな力になると私達は感じています。

しかし今は、レッスン体験を希望する子どもたちがいても、講師陣を十分に雇用し、継続的に場を用意するだけの資金が足りていません。

この部分が強化されれば「観る」だけでなく『やる』という体験が広がっていきます。
さらに、私達はこれまで次々に新しいプロジェクトを立ち上げてきました。
けれど、大きな会場は18ヶ月前に予約が必要なることもあり、前年度の段階で大きな支払いが発生する場合があります。
会場費だけでも100万円近い費用が必要となることもあります。

「こんなイベントがあったら、より社会と子どもたちがつながる機会を生み出せる」
「こんな取り組みを始めたら、数年後には子どもたちが本当に輝く場が生まれる」
そう考えても、年間予算が常にぎりぎりの状態では、新しいチャレンジに踏み出すことが難しくなります。

新演出のための機材購入。
レッスン体験活動の充実。
新プロジェクトの拡充。
そして、次世代の担い手を育てていくための人材育成。

これらを毎年安心して行うためには、日々の活動費とは別に、将来の活動を準備するための資金として、2000万円以上の活動基盤資金が常にある状態を目指していく必要があります。

皆様からのご寄付は、単に不足を埋めるためのお金ではありません。
子どもたちのもとへ本物の劇場体験を届けるためのお金です。
まだ出会えていない地域や現場へ向かうためのお金です。
そして、心魂プロジェクトの活動を、次の世代へつないでいくためのお金です。

是非、私達の活動へのご寄付をお願い致します。

私達の活動の先にいる子どもたちの翼になって下さい。

「心魂プロジェクトを支援して良かった」
そう思って頂けるよう、私達はこれからも、難病児・障がい児・きょうだい児、ご家族の皆様と共に歩み続けて参ります。
今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

あなたにできる応援のかたち

寄付、継続寄付、企業協賛、物品支援、ボランティアなど、さまざまな形でご支援いただけます。

個人でできる応援

- 単発寄付で応援
- 継続寄付で応援
- 物品での支援
- 広報で応援
(SNSでのシェア、イベント案内、活動紹介など)

ご支援はこちらから



寄付・協賛・継続支援など、各種支援方法をまとめています。

※ご支援や協働のご相談は、裏表紙の連絡先よりお問い合わせください。

企業・団体でできる応援・協働

寄付だけでなく、社員参加・会場提供・共同企画など、貴社の形に合わせた連携が可能です。

- 企業協賛・寄付
- 公演スポンサーになる
- パートナーとして共創
- 物品・会場・機材のご提供
- 寄付型自動販売機の設置
- 社員ボランティア

[ご支援後のご報告と連携]

支援企業・団体の皆さまへは、活動報告や成果をお伝えするとともに、ロゴ掲出や、社内外でご紹介いただきやすい形での情報提供・連携を行っています。

銀行振込でのご寄付

三菱UFJ銀行 横浜駅前支店 普通 1311645
トクヒ) ココロダマプロジェクト

※その他の金融機関や詳細は、QR先の寄付ページにも掲載しています。

ご支援は、心が動く体験を届け続け、子どもたちの未来の選択肢を広げる活動基盤になります。